

## 朝比奈原当日 QA

Q：御前崎総合病院の状況を教えてください。

A：報道の通り榛原総合病院がすでに 168 億の赤字で、来年 1 月から徳州会が指定管理者として運営する。市立御前崎総合病院は欠ける診療科が多い。現状では近隣病院や開業医との連携でお互いが助け合っている。救急時の体制も重要で、今後議会へ上程して消防署の分遣所をつくりたい。地理的問題や診療科によってはリスクの問題で医師が不足しているような状況。医師・看護師の確保に全力を尽くしたい。

Q：市民が今後、新型インフルエンザに感染した場合に薬は準備できているか。

A：開業医や市立病院で手配している。ワクチンが足りないなどの報道が流れているが、現段階でのウイルスの拡散を防ぐ薬剤は充足している。

Q：休日の当番医が掛川市や牧之原市、旧御前崎となっているが、新型インフルエンザが蔓延したとき対応できるのか。

A：市内開業医は榛原医師会と小笠医師会に分かれている。御前崎市内は開業医の協力で交替で診療できる体制を敷いている。新型インフルエンザが蔓延した場合は、総合病院で対応するほかはないだろう。市でも対策本部を立ち上げ、病院や開業医にも入ってもらい対策を練っている。

Q：報道で「インフルエンザのワクチンが国の契約医療機関でなければ配分できない」というが御前崎市にそれがあるのか。

A：ワクチンは手に入るだろう。不足の報道があるが、すべての市民へ行き渡るのであれば、市で補助して全員に接種してもらってもいいと考えている。数に限りがあるので、医療従事者や妊婦、幼児、高齢者など、どの順序で接種するかが今後の懸案だろう。

Q：防災を地域でやるのは当たり前だ。しかし、その指針は市で示すべきだ。すべてを地域でやるのは難しい。道が寸断して陸の孤島になった場合、給水はどうするのか、食料はどう入手するのかなど、防災課は事前に地域を調べたうえで指針を示すマニュアルをつくってほしい。

A：マニュアルを配布したが、すでになくなっていく家庭もあるだろう。自主防災会や消防団などと話し合っていきたい。

Q：原子力発電所も耐震裕度向上工事をして、今回の地震で被害があった。東海地震ではどうなのか心配だ。

A：「止める・冷やす・閉じ込める」の機能が働いて主要設備に被害はなかった。物事に「絶対」はないが、たとえ東海地震であっても放射能が周辺へ漏れることはないだろう。仮に外部へ放射性物質が放出されたとしても、即時に市民が被ばくすることは考えられない。情報を入手して、避難する余裕は十分にあると考えている。

Q：構造上の問題か、地質の問題なのか他に比べて最新の 5 号機の地震加速度が大きかった。1000 ガルに耐えるようにということであったが、あの地震で 400 ガルを超えていた。心配だ。

A：原因究明を要請した。必要とあらば、中部電力や国からも来てもらって説明を受け

たい。皆さんが納得できる説明を求めていく。

Q：「御前崎港が市の発展の核となる」ということだったが、ここは市の北のはずれで牧之原市へ隣接している地域。牧之原市と人的な交流も図ったらどうか。道路も 473 号線バイパスへつながるアクセスを整備してほしい。

A：職員は牧之原市と菊川市、県との人事交流をしている。榛原と小笠の郡境で垣根があり、今まで人と人との交流が目に見えていなかった。ありがたい意見。交流を進めるよう努力していきたい。アクセス道路は確かに必要性を感じる。市境での道路整備だけに、将来的に県や隣接市との調整を図りながら進めていきたい。

Q：原地域には公共施設がない。企業や施設を誘致して雇用面でも活性化してほしい。

A：公共施設がないのは事実。雇用確保のため企業誘致をしっかりと進めていきたい。

Q：議会中継のカメラが固定されていて臨場感が乏しい。カメラを自由に移動させてわたしたちが選んだ議員の活躍を見たい。

A：カメラは今年度固定したばかり。議場へは原則として傍聴席しか入れないが、市民への情報公開の手段として特別にケーブルテレビを入れている。会社と議会へ相談をかける。

Q：ケーブルテレビの音声告知放送が文書の棒読みで聞きづらい、話し言葉でしっかり話してほしい。

A：指導する。

Q：自動車に乗れない高齢者世帯がある。池新田へ行くには福祉タクシー券を片道 3 枚使っても足りない。往復 6 枚で 30 枚もらっても 5 回しか行けない。運転できない高齢者はこれから確実に増えてくる。福祉が必要な人が、均等なサービスを受けることができるよう柔軟な体制をとってほしい。

A：福祉タクシー券は本当に困って交通手段が必要な人へ手を差し伸べるようにしたいが、線引きが難しい。福祉へ利用するのか、公共交通手段の確保なのかを考える中で、真に必要な人が活用できるようにアイデアを貸してほしい。

Q：福祉タクシー券は利用条件を付して発行すべきだ。

A：その通り。有効利用するためにも研究していきたい。

Q：茶業の低迷が著しく、荒廃農地が増え、今後も増えていく恐れがある。みんなで考えていく必要があると思うが市でも配慮してほしい。

A：今ある優良農地を荒廃させない策が必要。経験豊富な JA の職員を派遣してもらうなどの措置を考えている。自給率が低い我が国には今後、農業の時代が来るだろうし、企業も農業へ手を伸ばしてくるだろう。しかし、経験を積んだ農家でないと農業の知識は乏しい。新年度から対策をとるために、培ったノウハウを教えてほしい。

Q：市政懇談会は来年度もこういう町内会単位でぜひやってほしい。

A：できるだけ細かい単位で開催したい。町内会単位に限らず、地域の団体やサークル仲間など、要望があればスケジュールを調整して出向いていく。